日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024 年 6 月 7 日（金）

活動隊員：寺田 英子、松田 朋子

1. 活動期間　2024 年 6 月 4 日（火）9 時 00 分 ～ 2024 年 6 月 6 日（木）17 時 30 分

2. 活動場所

避難所：正院公民館（石川県珠洲市正院町正院 22 部 2 番地 1）
　　　　珠洲市立大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町 1 字 78 番地）
　　　　珠洲市立宝立小中学校（石川県珠洲市宝立町鵜飼丑部 83 番地）
仮設住宅：正院町第 1 団地（珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町川尻 1 部 39 番地）
　　　　　正院町第 2 団地（正院ゲートボール場・石川県珠洲市正院町正院 2 部 1 番地）
　　　　　宝立町第 1 団地（珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鵜飼丑部 83）

3. 石川県珠洲市の被害状況（6 月 4 日 14:00 現在　石川県庁情報）

人的被害　死者：111 人　うち災害関連死：14 人　負傷者：重傷 47 人、軽症 202 人
住家被害　建物全壊・半壊・一部損壊：6,965 棟　非住家被害：5,288 棟
通水率：77.5%（3,715/4,791）

4. 避難所の状況

【避難者数】

正院公民館　 6 月 5 日：4 人
大谷小中学校 6 月 6 日：28 人
宝立小中学校 6 月 4 日：63 人

【避難所運営及び生活状況】

1）正院公民館 訪問日時：6 月 5 日（水）8：30 頃、6 月 6 日（木）7：50 頃

日中は仕事や自宅の片付けのため、早朝より避難所を空けることがほとんどである。そのためわれわれの訪問時に滞在者はいなかった。在宅避難をしている方が支援物資を取りに来られている。

2）大谷小中学校 訪問日時：6 月 5 日（水）14：00 頃

避難所運営本部員は不在であったが、常駐している消防の方に状況を伺った。運営体制に変更はなく、体調不良者もいないとのことであった。大谷小中学校グラウンドでは仮設住宅建設に向けての測量は終了したが、その後の建設は進んでいないとのことであった。

3）宝立小中学校 訪問日時：6 月 4 日（火）14：00 頃

日中は仕事等で滞在者はいない。仮設トイレが 5 基と車椅子トイレが 1 基設置されているが、そのうち仮設トイレの 3 基は使用を中止していた。自衛隊による入浴支援も継続中であった。

5. 仮設住宅の状況

【正院町第 1 団地：正院小中学校グラウンド 76 戸】訪問日：6 月 4 日（火)、5 日（水)、6 日（木）
集会所でのお茶会は、火・水・木で継続開催されている。外部支援団体による企画も行われていた。また、テレビ局による取材もあった。ラーメンの炊き出しには多くの地域住民が訪れており、活気にあふれていた。今後も炊き出しやイベントが多く計画されている。

【正院町第 2 団地：正院ゲートボール場 28 戸】
訪問はできなかったが、現地支援者より情報提供をいただいた。外出頻度の低下により、下肢筋力の低下が認められている住民が複数名いるとのことであった。個別の情報についてはささえ愛センターおよび健康増進センターと情報共有を行なった。

【宝立町第 1 団地：宝立小中学校グラウンド 153 戸】訪問日：6 月 4 日（火）
仮設住宅の各棟のスロープ周辺等で井戸端会議をされている様子が見られた。6 月 5 日に仮設住宅団地内の集会所にて第 1 回のお茶会が開催され 31 名の参加があった。

6. 支援活動の実際

【避難所巡回支援：正院公民館】
本部長より、6 月 3 日朝に大きな地震があり、避難されている方も動揺し怖がっていたというお話を伺った。避難所内の被害はなかったとのことであった。独居であり自宅へ戻ることには不安がある一方で、仮設住宅入居の基準に当てはまらず、避難所に滞在している避難者もいる。

【避難所巡回支援：大谷小中学校】
6 月 3 日朝の地震による被害は無かった。継続して血圧・体重を測定している避難者は不在のため会えなかった。避難者 1 名が在室していたが、体調等変わりないとのことであった。正院公民館同様に、独居であり自宅へ戻ることには不安がある一方で、仮設住宅入居の基準に当てはまらない避難者がいる。

【避難所巡回支援：宝立小中学校】
避難所運営本部の方より、避難所に避難されている方々はみなさんお元気だとの報告を受けた。

【仮設住宅支援：正院町第 1 団地、第 2 団地】

■ お茶会開催

開催場所：正院町第 1 団地集会場
開催日時：6 月 4 日（火）～6 日（木）10:00～12:00
参加者数：6 月 4 日（火）18 人、6 月 5 日（水）35 人、6 月 6 日（木）17 人
正院第 1 団地、正院第 2 団地、蛸島団地、在宅の方が参加された。

6 月 4 日（火）：お茶を飲みながら参加者のみなさんでお話をされていた。男性も 1 名参加されたが、他の参加者はみな女性であったため、話し相手を見つけることができず、お茶を飲んだら帰られてしまった。翌日は落語があるということをお伝えし、また来ていただけるようにと声かけをおこなった。

6 月 5 日（水）：落語があると聞いて初めて参加される方も多くおり、非常に多い参加人数となった。前日にお声かけした男性や、駐車場でお会いした男性の方も途中から参加してくださり、男性の参加者は 3 名であった。金沢から演劇をされている方が訪問され落語が 2 席披露された。参加者のみなさんの声をあげて笑っておられる姿を見ることができた（写真 1)。

6 月 6 日（木）：正院小学校の子どもたちと一緒にプランターへの花植えが行われた（写真 2)。花に詳しい参加者がテキパキと花植えを行う様子が見られた。非常に天気が良く、暑さを感じる中での活動

であった。気温と湿度の上昇による脱水や熱中症が懸念されたため、開始前に必要な方の血圧測定を行い体調の確認をするとともに水分摂取、帽子の着用を促した。また、活動中の様子を観察し体調変化に注意した。終了後、集会所へ戻り水分摂取をしていただいた後、シルバーリハビリ体操に関する講習が行われた。体調不良者もなく、子どもとのふれあいを楽しんでいる様子であった。

お茶を入れる際には足の不自由な参加者等へ飲み物の希望を自分たちで確認し提供するなど、主体的に動く人の数が増えてきている。6 月 3 日朝の地震による被害は無かった。1 月 1 日の地震を思い出し、怖かったという声が多く聞かれた。

【仮設住宅支援：宝立町第 1 団地】

■ **入居者訪問**

3 世帯訪問した。6 月 3 日朝の地震による被害はなかったとのことであった。体調についてもお変わりなく過ごされていた（写真 3）。個別にフォロー継続が必要なケースについては、kintone に入力のうえ、情報共有会議にて情報提供を行った。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【避難所支援】

避難所の避難者も減ってきており、日中は一人で過ごす避難者も多い。また、独居であり自宅へ戻ることには不安があるが、仮設住宅に入居できない避難者の今後の生活拠点をどのように整えていきたいと考えているかを把握していきたい。必要時、ささえ愛センターへ情報提供し、生活再建に向け、取りこぼしのないよう連携していく必要がある。

【仮設住宅支援】

民生委員を中心として主体的にコミュニティを構築する動きができつつある。落語など目新しいイベントを行うことで関心のある人が参加するきっかけとなっている反面、男性参加者が少ないことや参加者の固定化も懸念されている。6月5日に「地域コミュニティを考える会」が開催された。その会議で、正院のお茶会を「いっぷくせん会ね」に改称することと今後の運営について、集会所の活用方法についての議論がなされた。男性に参加をしてもらう方略や集会所でのイベントの内容を考えると同時に、誰でも安全に使用できるよう集会所の管理についても考えていく必要があるとの考えが示された。取りこぼしのない支援の実現のため、地域コミュニティのキーパーソンが様々な取り組みを主体的に提案している段階にある。しかし仮設住宅入居開始当初よりコミュニティの再構築に尽力しているキーパーソンの方々の疲弊も強く懸念されるため、外部支援者として引き続き様々な活動の実現に向け支援していきたい。

保健医療福祉の活動として避難所、仮設住宅、自宅にかかわらず地域全体の被災者支援が行われている。支援にかかわる各団体をささえ愛センターが取りまとめる動きも出てきている。支援の連携における会議体は「ささえ愛ミーティング」、「情報共有会議」、「要フォロー者ケース検討会議」などが運営されており、珠洲市全体の情報共有や個別の事例の報告なども行われている。われわれが活動中に、他県から派遣された精神保健福祉士も個別のケースへの介入を行うなど、専門性を活かしたきめ細やかな支援が行われていた。被災者のもつ課題は、健康のことだけでなく倒壊した自宅の公費解体や罹災証明のこと、家族関係のこと、仮水栓の設置にいたるまで実に様々である。各団体の強みを活かしながら連携して必要な支援が届けられるよう協働していく必要がある。

参考：現地の様子

写真は全て掲載の許可をいただいて撮影しております。

写真１　お茶会で落語を楽しむ

写真２　子どもたちと協力して花植え

写真３　仮設住宅で住民と話をする学会員